

第11期定時社員総会を開催

2021年5月26日(水)、(一社)日本自動認識システム協会の第11期定時社員総会を開催しました。総会は、事業運営の総括にはじまり、2020年度の事業報告、財務諸表と監査報告に続き、議案が承認されました。続いて、2021年度の事業計画および収支予算計画を報告し、総会は無事終了しました。

会報JAISA夏号 CONTENTS

第11期定時社員総会

P1～4

2020年度新規入会企業紹介

P5～7

研究開発センターから

画像認識プロジェクトの活動 P9～10

医療自動認識プロジェクトの活動 P11

2020年自動認識市場調査

P12

コロナ禍で議決権行使書による開催

2021年5月26日、東京千代田区のJAISA事務所で第11期定時社員総会を開催しました。本総会は緊急事態宣言発令下でもあり、議決権行使書による参加を呼び掛け、Web会議システムを併用しての開催となり、三件の議案が承認されました。

議案は、2020年度の事業報告および収支決算、定款の変更、役員任期満了に伴う理事・監事の改選であり、総会後の理事会において、代表理事会長、副会長、専務理事、常務理事が選任され、新体制がスタートしました。

【新任された理事の皆様】

理事 池上 隆介 氏
理事 斎藤 英雄 氏
理事 相良 隆義 氏
理事 宝代 彰 氏
理事 森田 昌洋 氏

また、このたび退任された理事の皆様は、永年当協会の活動にご尽力をいただき、理事職務と委員会や部会の取り纏め役となるなど、当協会と自動認識技術の発展に貢献されました。



写真左：前会長 池田隆之氏、写真右：新会長 小瀧龍太郎氏

【理事を退任された皆様】

小沢 慎治 氏（慶應義塾大学）
住吉 義勝 氏（オカベマーケティングシステム）
中川 弘靖 氏（デンソーウェーブ）
宝代 将人 氏（フェニックス）
九野 伸 氏（日立製作所）

一般社団法人日本自動認識システム協会 理事・監事

(50音順)

役職	氏名(敬称略)	会社名
代表理事会長	小瀧 龍太郎	サトーホールディングス(株) 代表取締役社長 兼 CEO
代表理事副会長	塩川 恵一	(株)リコー IMS事業部 事業部長
副会長	佐藤 誠	東芝テック(株) リテール・ソリューション事業本部 担当部長
専務理事(常勤)	古村 浩志	(一社)日本自動認識システム協会
常務理事(常勤)	武藤 健	(一社)日本自動認識システム協会
理事	荒木 勉	上智大学 名誉教授
理事	有馬 史郎	NECプラットフォームズ(株) 執行役員
理事	池上 隆介	(株)日立製作所 サービスプラットフォーム事業本部 担当本部長
理事	市野 将嗣	電気通信大学 大学院 情報理工学研究科 准教授
理事	岡田 幸紀	アイメックス(株) 代表取締役
理事	斎藤 英雄	慶應義塾大学 理工学部 教授
理事	相良 隆義	(株)デンソーウェーブ 代表取締役社長
理事	西田 浩一	サトーホールディングス(株) 顧問
理事	西田 義則	凸版印刷(株) 事業開発本部 ビジネスイノベーションセンター長
理事	春山 安成	(株)マーストーケンソリューション 取締役会長
理事	宝代 彰	(株)フェニックス 代表取締役社長
理事	松森 邦彦	富士通フロンテック(株) シニアフェロー
理事	森田 昌洋	オカベマーケティングシステム(株) 代表取締役社長
監事	小森谷 豊	税理士法人レインボー 代表社員 公認会計士・税理士
監事	平本 純也	アイニックス(株) 代表取締役社長



本総会をもって退任された理事の皆様（前列）と
新任された理事の皆様（後列）

前列：左から、池田氏、住吉氏、小沢氏、宝代氏、中川氏、
後列：左から、宝代氏、森田氏、斎藤氏、相良氏、池上氏

2021年度事業計画

1. 概況

社会経済に大きな影響を与えている新型コロナウイルスによるダメージは、徐々に回復することが期待されるものの、ウィズコロナにおける「新生活様式」が日常化するなかで、日本が抱える高齢化、人手不足、環境保全など社会問題解決のための取り組みが不可欠となっている。「DX（デジタルトランスフォーメーション）」による社会的基盤の革新のためのテクノロジーとして、IoT、ビッグデータ、AI、ロボット技術、自動運転技術などの本格的導入が見込まれ、さらにSDGsやカーボンニュートラルの取り組みも政府の推進で本格化することが予想され、その基盤技術として自動認識システムが期待されている。

2. 自動認識市場

自動認識システムは「新生活様式」を先取りしたさまざまなソリューションに欠かせない技術として用途を拡げている。

当協会が4月に発表した2020年の自動認識市場調査では、新型コロナウイルスの影響を受け、市場規模は減少に転じた。今後も新型コロナウイルスの影響は残るとみられるが、多くの業種で自動認識システム導入が検討され、リプレイス需要にも期待感があり、自動認識市場は堅実に成長していくものと予測する。

● JAISA自動認識市場出荷金額調査結果

2018年	2,460 億円
2019年	2,526 億円
2020年	2,310 億円
2021年予想	2,423 億円 *詳細はP12に掲載

3. 活動方針

JAISA 設立の目的に沿い、以下の活動により、自動認識業界の産業振興に貢献し業界をリードしていく。日本経済の発展および国民生活の向上に寄与する。

1) 会員サービス向上

セミナー、資格認定事業などを通じて会員企業への情報提供や教育支援とともに、展示会、自動認識システム大賞、Webコンテンツなどによる会員企業からの情報発信の機会を継続的に提供する。

2) ウィズコロナ時代の堅実な事業運営

ウィズコロナ環境下での協会催事を適正規模で開催する。事業面ではリスクを抑えた堅実な事業運営と、感染防止対策を十分に行った安心、安全な事業運営を行う。事業の運営においては、理事会、企画運営プロジェクトを中心に各事業の進捗を評価し、成果の最大化を図る。

4. 広報および普及啓発事業

1) 展示会の主催

- 「第23回自動認識総合展」を本年10月に東京ビッグサイトで開催する。会場では、主催者テーマ展示＜未来をつなぐAUTO-ID＞を継続し、自動認識技術の未来を来場者に紹介する。
- 「第19回自動認識総合展 大阪」を来年2月にマイドームおおさかで開催し、関西地域における自動認識技術・ソリューションの普及促進に努める。



「自動認識総合展 大阪」展示会場（2020年12月）

2) 自動認識の基礎知識セミナー

自動認識市場の活性化のために提供するサービス事業の一環として、自動認識の基礎知識セミナーを集合およびオンライン形式で、年5回実施する。また、講師派遣による個別企業への自動認識基礎知識セミナー も随時実施する。

3) JAISAフォーラム

当協会研究開発センターで組織する部会（バーコード、RFID、バイオメトリクス、システム）およびプロジェクト（画像認識、医療自動認識）の活動、研究開発事業の内容、成果、業界の最新動向などを広く公表し、自動認識市場の活性化につなげる目的で、JAISAフォーラムを開催する。

4. 自動認識システム大賞

自動認識技術を用いた先進的かつその効果が極めて顕著な優れた応用事例を公募し、有識者の厳正な審査により、自動認識システム大賞、優秀賞、フジサンケイビジネスアイ賞を選定し表彰するとともに、技術面での先進性を評価し得る作品がある場合は、特別賞を選定し表彰する。また、各賞は自動認識総合展においてパネル展示し、報道機関に発表するとともに、当協会Webサイトおよび自動認識技術情報誌「JAISA NOW」で紹介する。



受賞作品プレゼンテーション



表彰式会場



昨年度「第22回自動認識システム大賞」受賞者

昨年度【第22回 自動認識システム大賞 受賞一覧】

	受賞作品タイトル	自動認識技術	申請会社 / 共同申請会社
大賞	QRコードを活用した ホームドア用車両扉状態検出システム	二次元 シンボル	(株) デンソーウェーブ 東京都交通局
優秀賞	複数加盟店での指静脈認証による 手ぶらで安全なキャッシュレス決済 POC	生体認証	(株) 日立製作所 ユーシーカード (株)
優秀賞	RFIDを活用した樹脂製通箱高速仕分けシステム	RFID	(株) デンソーエスアイ
フジサンケイ ビジネスアイ賞	AI/MLを活用し、害虫・ネズミと戦うIoTソリューション ～害虫駆除のゲーム・チェンジャー～	画像認識／ AI / IoT	(株) ベストビジョンソリューションズ 環境機器 (株)
特別賞	プロジェクションピッキングシステム®	画像認識	(株) アイオイ・システム

5. 資格認定事業

自動認識技術者の育成・確保を図り、その技術を広く社会に知らしめていくため自動認識技術者資格認定登録を行う。

- 1) 自動認識基本技術者資格認定講習・試験を4回開催予定
- 2) 自動認識RFID専門技術者資格認定講習・試験を1回開催予定

6. 規格の立案および標準化の推進事業

自動認識業界および自動認識技術の利用者である産業界の関連団体と協力して業界の共通課題を解決し、産業の発展に寄与するため、当協会が国内審議団体として活動する標準化会議を開催する。また、他団体の標準化会議にも積極的に参加し、国際標準および国内標準化活動を実施する。

- 1) ISO/TC 122 (包装) / WG12 標準化推進
(サプライチェーンへの物流技術の適用)

- 2) ISO/IEC JTC 1/SC31 標準化推進
(自動認識およびデータ取得技術)
- 3) ISO/IEC JTC 1/SC37 標準化推進
(バイOMETRICS)

7. 部会・プロジェクト活動

部会・プロジェクトは、会員サービスの向上を念頭に、活動を通じて部会員の事業に役立つ付加価値（会員メリット）を提供するため、仲間作りの場の提供、業界や関連省庁の最新情報の提供や普及啓発活動並びに市場拡大のために解決すべき業界共通課題の発見とその解決に取り組む場として活動する。

1) 情報交流会の開催

自動認識に関連する業界やユーザの動向、導入事例、最新技術、国際規格、国内規格、規制緩和、関連省庁の最新情報の提供、あるいは当協会で行っている研究開発事業の活動や成果を会員企業と共有するため、情報交流会を開催し、セミナーなどを実施する。また、その場を活用して会員相互交流・親睦を行う。

2) 現地視察研究会（見学会）の開催

各部会・プロジェクトのメンバーが、自動認識技術を導入して成果をあげているユーザを訪問して導入現場を視察し、自動認識システム導入の動機や効果、課題について意見交換を行うなど、「気づき」を得られる現地視察研修会（見学会）を実施する。

3) 市場における課題の抽出

普及啓発活動並びに市場拡大のために解決すべき業界共通課題の発見のため、講演会や意見交換会を開催し、課題提起を促すとともに業界に共通する課題を探索・認知する活動に取り組む。

4) 課題の解決に向けた活動

業界に共通する課題の解決のため、各部会・プロジェクトに技術グループや作業グループを設置して活動する。また、関係省庁や関連団体への積極的な働きかけを通して関係者との協力関係を醸成し、受託事業や当協会独自に実施する研究開発事業に繋げ、その活動を通して課題解決に結びつける。これらの活動に際しては、既存領域に留まらず、新技術の取り組みをも視野に入れて、各業界団体や標準化団体、関連企業とも必要に応じて協力・連携する。

8. 研究開発

研究開発は、市場創造や産業育成のための課題や阻害要因を解決するための活動と位置付け、必要に応じて委託・補助金事業テーマとして関係省庁や関係団

体に提案し、連携・協力して活動する。また、自動認識市場の普及促進による会員企業のビジネス拡大に貢献するため、事業の成果は部会・プロジェクトなどを通じてその成果を会員企業および市場と共有する。

1) バーコード関連

- ・JIS X 0527の国際標準化

2) RFID関連

- ・物流における自動認識技術（電子タグなど）利活用のためのデータ共通化による国際標準化
- ・RFIDタグ評価の研究

3) バイOMETRICS関連

- ・生体認証精度評価を容易とする精度評価方法に関する国際標準化

9. 自動認識システムなどに関する関連機関との交流および協力

関係省庁や団体の活動に積極的に協力・参画し、市場ニーズ、技術トレンド、標準化動向、国の施策などの情報収集ネットワークを構築、維持することで、当協会が取り組むべき新領域の情報を掴むとともに会員企業に的確な情報提供を行う。

- 関連省庁の指導および産業育成計画や行政施策の把握
- 産業団体、標準化団体との交流
- 研究開発団体との連携

(2021年 第11期 定時社員総会 資料より記載)

バーコード / RFID / 生体認証

自動認識の基礎知識セミナー

誰でも参加でき、オンライン受講可能
新入社員や新任担当者に最適！

セミナー 講演時間		
バーコード 105分	RFID 150分	生体認証 105分

図表・事例・映像で解説します

種類や特徴、市場動向、実機体験、どこでどのように使われているの？導入前の課題と対策、標準化、ほか

■ 開催日 2021年10月13日(水)
2021年12月8日(水)

講師派遣によるセミナーを
随時受付しております
御社の人材育成・
研修プログラムに如何ですか

■ 場 所 当協会会議室 10:00～17:30

■ 定 員 会場/20名 オンライン/20名

* 新型コロナウイルス感染症対策を充分に行い、参加者の安全に配慮して実施いたします。

自動認識基本技術者認定講習・試験

自動認識システムのエンジニア育成
導入・改善のための技術的ニーズに対応！

自動認識基本技術者資格認定講習・試験

バーコード、RFID、 生体認証、標準化 (4科目)	講習内容 出題範囲	バーコード、RFID、生体認証、 企業戦略と国際標準化など、自動認識 技術に関する基礎知識(多肢選択式)	
■ 開催日	講習/2021年6月18日(金)	講習・試験/6月19日(土)	東京会場
	講習/2021年9月10日(金)	講習・試験/9月11日(土)	大阪会場
	講習/2021年10月22日(金)	講習・試験/10月23日(土)	東京会場
	講習/2021年11月19日(金)	講習・試験/11月20日(土)	名古屋会場
	自動認識RFID専門技術者資格認定講習・試験		
講習/2022年2月3日(木)～5日(土)		試験/2月19日(土)	東京会場

一般社団法人

日本自動認識システム協会

お問い合わせ

TEL: 03-5825-6651

Mail: jaisa_otoiawase@jaisa.or.jp

2020年度、新たに5社が入会

2020年度（20年5月～21年4月）には、JAISAに新たな会員として5社をお迎えすることができました。本号では新会員企業様をご紹介します。



JAISA会員は現在131社。コロナ禍で社会経済が先行き不透明とも言われるなか、自動認識技術はNew NormalやDXなどビジネス構造変革に欠かせない基盤技術として、更なる発展が期待されます。

新たに入会された皆さまは、今後JAISAの部会・プロジェクトに参加し、自動認識技術の発展と新生活様式を先取りするソリューションの研究・開発に、共に取り組みます。

社 名	入会年月	参加予定の部会・プロジェクト					
		バーコード	RFID	バイオメトリクス	システム	医療自動認識	画像認識
株式会社ハイエレコン	2020年 7月		●		●		
ARC株式会社	2020年 10月	●	●				
カシオ計算機株式会社	2020年 10月	●	●	●		●	●
コムシス情報システム株式会社	2020年 10月						●
日本パレットレンタル株式会社	2020年 12月		●				

株式会社ハイエレコン Hi-Elecom Co., Ltd.



会社概要

株式会社ハイエレコンは、1982年の創立以来「誠意をもって社会の信頼に応える」を社是と定めて取り組んでまいりました。技術力においては、業界に先駆けてコンピュータネットワークシステムの提案とソフトウェア開発の一体化を推進し、情報サービス分野で最先端の技術力をもった企業として、各方面のお客様から高い評価をいただくほどに成長することができました。

事業展開においても、コンピュータ及びネットワーク機器の販売とソフトウェア開発に加えて、企業内ネットワークインフラ整備の設計・施工・運用保守等、コンサルティングや運用委託へとその領域を拡大してまいりました。さらに、得意分野におけるソフトウェアパッケージの開発・販売、クラウドコンピューティング、ネットワークセキュリティをキーテクノロジーとした総合SIベンダーを目指しております。

事業について

【市場】
・文教市場（大学・専門学校）
・公共市場（地方自治体・教育委員会）
・製造業
・流通業
・冠婚葬祭互助会市場
・NTTグループ各社



【事業】
・ソフトウェア開発（受託・派遣）
・ネットワーク認証基盤構築
・ネットワーク基盤保守業務
・オリジナルパッケージ販売
・IT機器販売

製品・サービスについて

・RFID備品管理パッケージ
『タグ衛門』

・その他のソリューションパッケージ
食肉業者向け販売管理システム
『トレサミート』
冠婚葬祭互助会向け統合パッケージ
『カーニバル』
介護事業者向け勤務表作成システム
『勤務工房』


担当窓口から

2020年よりRFID備品管理パッケージの販売を開始しました。RFID・自動認識の業界では新参者ではありますが、創意工夫とお客様ニーズに対する提案力で、RFID市場において新たな風を吹かせたいと思っています。

ARC株式会社 ARC Co., Ltd.



会社概要

ARC株式会社は、1963年に旭記録製造という社名で、レジスター用のレジロールを製造するところから始まった会社です。現在はスーパーマーケット等の量販店向けにサーマルレジロール、計量プリンターラベル、販促用シール、手動型包装機のハンドラップをメインとして扱い、全国にある得意先をフォローさせて頂いております。

会社名：ARC株式会社
所在地：愛知県稲沢市陸田一里山町53
代表者：代表取締役社長 井川敏隆
資本金：8,000万円
創業：昭和38年10月
設立：昭和41年6月27日
従業員数：210名



事業について

レジスター用ロールペーパー、計量プリンターラベル、PDラベル、プライスラベル、バーコードプリンターラベル、POPシール、オリジナルシール、磁気記録駐車券、園芸用ラベル、挿し札、手動型包装機の開発・製造・販売。



製品・サービスについて

ラベル・シールを中心にロールペーパーなどの紙製品の加工、印刷を行なうメーカーです。自動認識関連の商品としてバーコードを印字するサーマルラベルやバーコードを印刷する印刷ラベルがあり、札幌から福岡まで11か所の拠点で販売活動を行なっております。



担当窓口から

RFID関連商品は現在取り扱っておりませんが、今後の動向や商品についての最新情報を身に付けたく入会いたしました。色々と勉強させて頂ければ幸いです。

営業部 次長 千葉博志

カシオ計算機株式会社 CASIO COMPUTER Co., Ltd.



会社概要

カシオ計算機株式会社は、1957年6月設立。主な事業内容は時計、電子辞書、電卓、電子楽器などのコンシューマ向け製品や、ハンディターミナル、電子レジスター、データプロジェクターなどのシステム機器の製造と販売。



主な取扱製品

・時計
・電子辞書
・電卓
・電子文具
・電子楽器
・ハンディターミナル
・電子レジスター
・経営支援システム
・データプロジェクターの製造および販売。



GMW-B5000D-1JF fx-JP900-N

PA事業の特長

1984年に「DT-6000」発売とともにハンディターミナル事業を開始。2020年にはAndroid OSを搭載したフラッグシップモデル「IT-G600/IT-G650」を発売するなどDX時代に対応する先進的なハンディターミナルとして、活用領域を拡大、協業パートナーと共にビジネスシーンを効率化するソリューションを提案しています。



IT-G600

担当窓口から

最新技術情報やマーケット動向の情報と他社員企業との交流によるビジネス機会の提供を期待しています。また、協会活動を通じて業界への貢献も入会動機の一つです。

コムシス情報システム株式会社 COMSYS JOHO SYSTEM Corporation


https://www.comjo.co.jp

会社概要

コムシス情報システム株式会社は、コムシスホールディングスグループにおけるソフトウェア開発を主とした情報通信システム事業を担う会社として2009年4月に日本コムシス株式会社から事業分離し設立されました。情報通信建設事業分野で培ってきた高度な情報処理技術や専門知識を基に、前身から約半世紀にわたり電気通信事業者、官公庁、金融機関など幅広いお客様の情報通信システムの開発や構築に携わっています。



事業について

- ・情報システムに関する企画、設計、開発、構築、保守、運用及び管理
- ・経営及び情報システムに関するコンサルティング
- ・情報システムに関するソフトウェアの開発・製造、販売及び賃貸
- ・情報処理サービス、情報通信サービス及び情報提供サービス
- ・情報技術を用いたアウトソーシングサービス、その他の各種サービス
- ・情報システムに関する調査、研究及び教育
- ・各種電気通信設備の設置工事、保守及び修理加工
- ・労働者派遣事業

2017年より、AI（人工知能）による自動認識技術でさまざまな業種/業界に提案していく事業展開が始まり、これを機に（一社）日本自動認識システム協会へ参加することとなりました。

主な製品・サービス

- ・製品外観検査ソリューション
- ・太陽光発電所ドローン自動点検サービス
- ・安全帯装着点検ソリューション
- ・メーター自動読み取りソリューション



担当窓口から

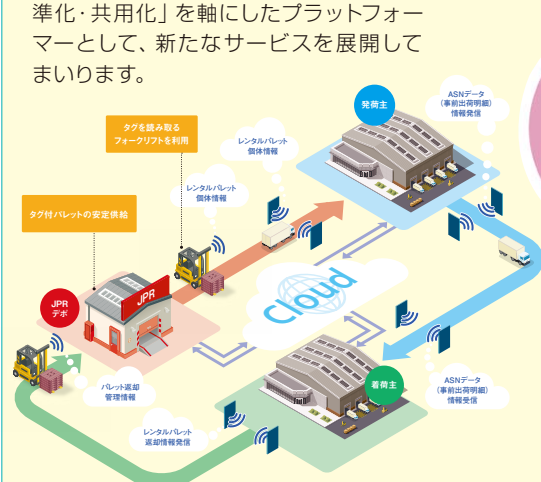
AI（人工知能）による画像認識を得意としており、建設業や製造業で既にお客様に評価いただいております。ご連絡お待ちしております。
Email: bd_contact@mlb.comjo.co.jp

日本パレットレンタル株式会社 Japan Pallet Rental Corporation (JPR)

 日本パレットレンタル株式会社
https://www.jpr.co.jp

会社概要

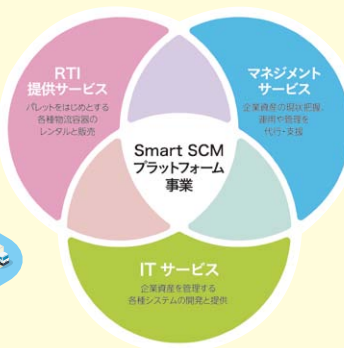
日本パレットレンタル株式会社は、物流の必需品である物流容器「パレット」のレンタルを基軸とした事業を展開してきました。レンタルパレットサービスで培ったノウハウに加え情報技術を積極的に活用し、物流業務の自動化や効率化、省人化を図るサービスも提供しています。「標準化・共用化」を軸にしたプラットフォームとして、新たなサービスを展開してまいります。



事業について

- ・RTI提供サービス
- ・ITサービス
- ・マネジメントサービス

3つのサービスラインナップで、お客さまに最適なソリューションをご提案いたします。



主な製品・サービス

Logiarx (ロジアークス)
クラウドでRTI（パレットやカゴ車、プラスチックコンテナなどの通い容器）の個体管理が可能です。スムーズな管理や紛失防止によるコスト削減、個体データの分析・活用でお客さまの運用改善に貢献します。



担当窓口から

RFIDユーザーとしての経験を活かし、物流業界の課題に皆様と共に取り組んでいきたいと考えております。宜しくお願いいたします。

事業企画部
木下 卓也



AUTO-ID & COMMUNICATION EXPO 第23回 自動認識総合展

2021.10.6^{WED}-8^{FRI} **ゾーン展示** モバイル&ウェアラブルゾーン 画像認識ゾーン
10:00-17:00 東京ビッグサイト 南3・4ホール



A BRIGHTER FUTURE WITH AUTO-ID

未来をつなぐ **AUTO-ID**

— SDGsとDXに貢献 —



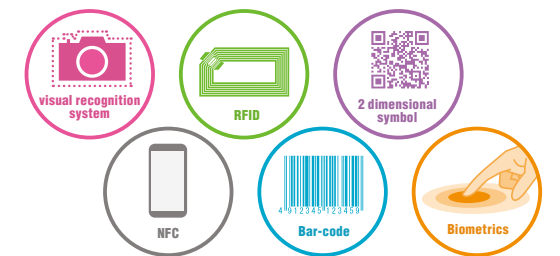
主催：一般社団法人日本自動認識システム協会

併催事業： **BT Space** 自動認識セミナー

www.autoid-expo.com



公式サイトはこちらから



展示会事務局 (株)シー・エヌ・ティ

〒101-0041 東京都千代田区神田須田町1-24-3 FORECAST神田須田町4F TEL. 03-5297-8855 FAX. 03-5294-0909 info@autoid-expo.com

JAISA
Japan Automatic Identification Systems Association

画像認識プロジェクト

IMAGE RECOGNITION

従来、人間が目視で確認・判定してきた領域を、デジタルデータで蓄積・高速処理できるメリットがある画像認識。バーコードやRFIDタグなど認識対象に貼れないモノを画像から識別する技術は、身近な生活シーンから幅広い産業界でニーズが高い。JAISAに画像認識プロジェクトが発足して2年、今後の活動に大きな期待がかかる。

画像認識プロジェクトの活動

今年度の活動目的と活動方針

- 【活動目的】
- 参加メンバーの交流によるプロジェクト活性化
Web参加併用式など、メンバーの「やりがい」を創生
すべく積極的な活動を提案
 - ワーキンググループ(WG)体制の見直し
現状3WG活動以外に小グループで気楽に参加できる
新WGを設定し参加促進を行う
 - 対外活動への参画推進
画像認識・AIを推進する団体、学会などとの積極的
な情報交流を進め、プロジェクトの意義を高める
- 【活動方針】
- 定期活動
・情報交流会開催：年6回(偶数月)
 - WG活動
・画像認識技術ガイドライン「導入編」発刊(6月)
・各WG活動内容見直しと新WG設立検討
 - 見学会
新型コロナウイルス感染症の状況に配慮しつつ、9月以降で
開催を検討

ガイドライン検討ワーキンググループ

1. 昨年度のグループ活動における課題と、
克服に向けた取り組み

2021年6月の完成を目標にしてガイドラインの作成を進めました。現実的に、AI／DL技術や商材に精通したメンバーは限られているため、記載する内容を固めていくことに時間が掛かりました。会員からのアンケートでの要望や事例などでは情報収集に限界があるため、シンクタンクの資料やWeb調査、情報交流会に参加いただいた方々の資料をもとに編纂をすすめ、何とか形にすることができたと思っています。



片岡 好広 氏
画像認識プロジェクト長
兼 ガイドライン検討
ワーキンググループ長

画像認識プロジェクト長 兼 ガイドライン検討ワーキング グループ長	片岡 好広	東芝テック(株)
副プロジェクト長 兼 交流推進ワーキング グループ長	齋藤 有二	(株)サトー
技術調査・適用ワーキング グループ長	柿沼 明宏	(株)リコー
技術調査・適用副ワーキング グループ長	光信 拓也	セコム(株)
会員数	40社	

(2021年5月現在)

2. 昨年度のグループ活動の内容と、成果について

- 【活動目的】
2020年4月～12月
- ・ほぼ隔週でワーキンググループを開催し、全10章のガイドライン＜導入編＞を各担当が基礎案を基に作成。
 - ・これをグループ全体で意見交換を行い、章立てと記載内容を見直し、原案を作成。
- 2021年12月～現在
- ・文章や表ばかりになりがちな原案に、随所に挿絵を挿入し初心者にも分かり易くするなど、ボリュームとレベルの均質化をはかり、最終版に向けてメンバー全員で改訂を重ねている。
- 【成果】
- ・メンバー全員のスキルアップを図ることができた。
 - ・各章がまとまるにつれ、積極的な提案とメンバー同士の連携が強まり、協力関係が築けた。

3. 今年度のグループ活動について

- 【活動内容】
- ・ガイドライン＜導入編＞の発刊に向け、本稿ピアレビューにて全章を再度確認する。
 - ・＜導入編＞に続き、“分野別の情報整理”や“事例集”などの続編を計画。
 - ・技術やサービスの紹介から実際にクラウド／エッジAI(エッジデバイス)環境に適用する際の“活用編”の作成を検討。

交流推進ワーキンググループ



齋藤 有二 氏
画像認識副プロジェクト長
兼 交流推進ワーキンググループ長

1. 昨年度のグループ活動の運営課題と、
克服に向けた取り組み

- 【運営課題】
- 活動の主軸として掲げていた「展示会・セミナーでの情報収集活動」が、コロナ禍により中止を余儀なくされました。
- 【克服に向けた取組み】
- 従来のコミュニケーションが困難のなか、活動方針を「Webからの情報収集」に変更して、リストにまとめました。また、後半はガイドライン検討WGが作り上げた成果物の精査や校正などを中心に活動しました。

2. 昨年度のグループ活動の内容と、成果について

- ・Webでの情報収集とリスト化
- ・ガイドライン検討WGのサポート
挿絵に使用するイラストの収集
ガイドライン＜導入編＞の文章校正、など
- ・会員へのアンケート

3. 今年度のグループ活動について

- ・情報交流会で講演頂いた企業様と連携して、事例などの最新情報をタイムリーに会員様に共有できるようにする。(協業・提携に必要な情報も共有予定)
- ・マーケティング活動として、講演企業様の導入事例や市場・潜在ニーズの調査を行い画像認識プロジェクトで取り組むべき活動のコンテンツを新たに提案する。(マーケティングメンバーの募集)
- ・会員様向けにセミナーや見学会の開催を計画する。

プロジェクト長とグループ長から：
プロジェクトメンバーと、
今年度の新メンバーへのメッセージ

- もっと詳しく画像認識について知りたいという探求心をお持ちの方、知識を人に伝えたい、モノづくりに興味のある方、広く募集しています。皆さまご参加お待ちしております。
- 経験・スキルなどを気にせず、自由に活動することを目指しておりますので、皆さまご参加お願いいたします。

技術調査・運用ワーキンググループ



柿沼 明宏 氏
画像認識プロジェクト
技術調査・適用ワーキンググループ長

1. 昨年度のグループの活動方針と、
課題の克服に向けた取り組み

- 【活動方針】
- 画像認識技術を導入する際に、技術や先行事例を知ることで、システム設計や運用を適正かつ高速に実現できるようにするため、世の中の画像認識技術や適用事例を幅広く調査・整理し、情報提供する。
- 【克服に向けた取組み】
- ・画像認識はさまざまな分野で活用されており、幅広く事例を集めるのに苦労しました。
 - ・あらゆる業界を網羅したフォーマットをあらかじめ用意して、WGメンバーの総力を挙げて調査を実施しました。
 - ・調査結果をガイドラインに反映させる際、どのように整理すれば価値の高い情報となるか、幹部会やメンバーへの提案・議論を繰り返し行いました。

2. 昨年度のグループ活動の内容と、成果について

- ・画像認識の適用シーンを調査し、15業界・82分野でまとめた一覧表を作成。
- ・調査結果を活かし、適用シーンや事例をガイドライン＜導入編＞に掲載。
- ・画像認識技術の導入に失敗しないよう、画像認識が苦手なこと、成功事例や挫折した事例まで、イラスト付きで明示した。

3. 今年度のグループ活動について

- ガイドライン＜導入編＞のリリースおよび改訂
- ・ガイドラインをメンバーで再評価し、不足点や改良点などを洗い出す。
- ・将来を見据えた仕掛けづくりとして、これからの画像認識の用途を先読みするような活動を行い、提案する。
- ・JAISAとして何を準備していくべきかを検討、発信していく。

医療自動認識プロジェクト

病院・診療所などの医療機関で自動認識システムが導入されて久しい。医療現場で主流のバーコードによる3点照合（患者・看護師・投薬）や、患者、職員、医薬品の管理、外来受付に加えて、近年は安全性と業務効率化を目指して RFID の導入や IT 化を進める病院も多い。さらに、オンライン診療の顔認証や病巣の画像診断など、画像認識技術の活用も進められている。

HEALTHCARE



白石 裕雄 氏
医療自動認識
プロジェクト長

医療自動認識プロジェクトの活動

1. 今年度の活動目的と活動方針

医療自動認識プロジェクトは、バーコード、RFIDなどの自動認識技術を活用した医療の安全と効率化を目指しています。

2019年12月公布の改正薬事法で、医薬品・医療機器へGS1バーコード表示が法律で義務化されます。医療業界は、2022年12月の施行に向けての取り組みが加速します。とはいえ、表示されたGS1バーコードが現場で活用されなければ意味がありません。医療行政、業界（メーカー、卸、SPD）、医療現場などから情報を収集し、GS1バーコードやRFIDの現場活用に向けた支援に取り組んでまいります。

2. 昨年度のグループ活動における運営課題と、克服に向けた取り組み

- ・コロナ禍の対応最前線である医療機関や関係者への訪問が一切できなくなりました。
- ・医療現場への見学会も全て中止となり、年間計画を見直しました。
- ・新規の方との名刺交換や打ち合わせも出来ず、コロナ禍の影響の大きさに戸惑いました。
- ・反面、この1年でプロジェクト組織に副プロジェクト長2名を加え、活動の多様化を進めました。
- ・会議や打ち合わせが全てWEB対応になり、在宅での仕事の取り組みが進化しました。

3. 昨年度活動の成果

- 改正薬事法関連
法律改正で自動認識に関わる部分の明確化を進め、プロジェクトメンバー間での情報共有を図りました。また、JAISAフォーラムでこの情報発信を行いました。
- SIP（内閣府総合科学イノベーション会議の戦略的イノベーション創造プログラム）

医療自動認識プロジェクト長	白石 裕雄	サトーホールディングス(株)
副プロジェクト長	浅野 壮介	東芝テック(株)
副プロジェクト長	田井中 秀人	アイニックス(株)
会員数	28 社	

（2021年5月現在）

改正薬事法でGS1表示が法律で義務化になりますが、今後の課題は医療業界での利活用です。昨年度、SIP事業で、国立国際医療研究センターが取り組んだRFIDによる整形インプラント製品の、卸、病院間の製品管理への利活用実証実験にオブザーバーとして参加し、高額で管理に手間のかかっているインプラント製品にはバーコードだけでなく、RFID活用の可能性が出てきました。

4. 今年度の取り組み

- ・2021年12月の改正薬事法施行に向けて、業界の取り組み動向を引き続きフォローします。
- ・国立国際医療研究センターの取り組みを社会実装に向けてフォローしていきます。

プロジェクトメンバーと
今年度の新メンバーへのメッセージ

医療自動認識プロジェクトが取り組んでいる、医薬品・医療機器製品へのGS1バーコード表示促進活動は、開始してから約20年にもなります。今回の薬事法改正によりGS1バーコード表示が義務化されますが、その活用が本格化するにはまだ多くの課題を解決しなければなりません。コロナ禍のワクチン接種や医療機関の病床問題など、医療業界は複雑な組織体制の要因で情報の一元化が非常に難しい業界です。これからも皆さんの協力を頂き医療安全と効率化の実現に向けて取り組みを進めてまいります。

市場統計委員会

JAISA市場統計委員会は、自動認識システム関連製品の2020年における出荷数量、出荷金額および2021年の出荷数量予測、出荷金額予測を、当協会会員企業を中心にアンケート調査を行い112社の回答を取りまとめました。

市場統計委員会では、自動認識関連市場の調査、集計、分析を行い、市場動向や今後の予測についても独自に調査し、発表しています。

2020年出荷数量・出荷金額
自動認識機器の市場動向調査結果のポイント

- 2020年の自動認識市場の出荷金額は、2,310億円で2019年比8.5%減少
- 2021年の自動認識市場の出荷予想金額は、2,423億円で2020年比4.9%増加

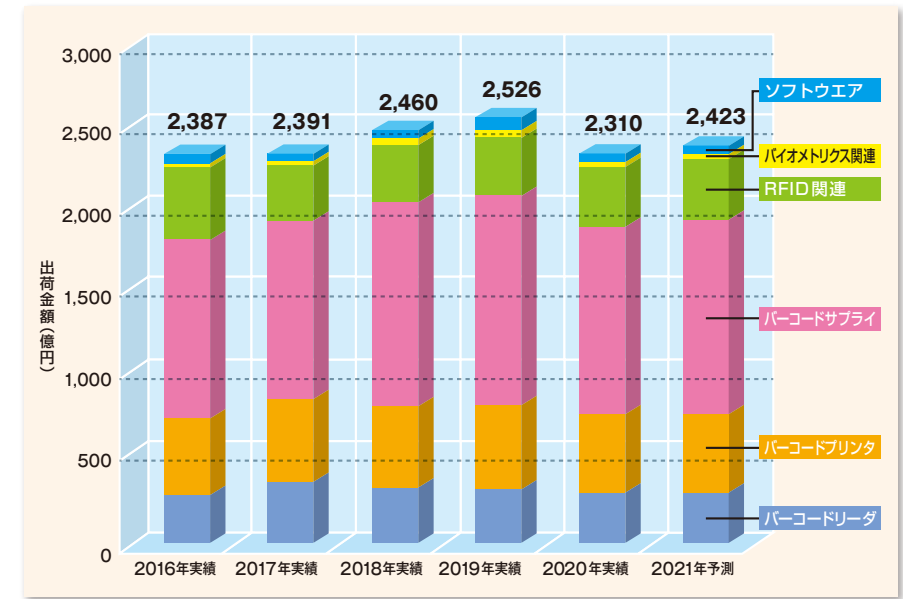
分野別ではバーコードプリンタ、バーコードリーダー、バーコードサプライ、RFID、バイオメトリクス、ソフトウェアすべての分野で出荷金額が減少した。

各項目の前年対比の出荷金額は、バーコードリーダーが6.1%減の280億円、バーコードプリンタが7.6%減の423億円、バーコードサプライが8.0%減の1,170億円、RFIDが7.8%減の360億円、バイオメトリクスが28.2%減の28億円、ソフトウェアが28.9%減の48億円という結果であった。

2021年自動認識市場全体の出荷金額は、新型コロナウイルスの影響で先行き不透明であるが、多くの業種で自動認識システムの導入が検討され、またリプレイス需要にも期待感があり、2020年対比4.9%増の2,423億円を予測している。

上段＝出荷金額（百万円）
下段＝対前年比（%）

自動認識市場出荷金額の推移



自動認識市場の国内市場金額推移

	2016年実績		2017年実績		2018年実績		2019年実績		2020年実績		2021年予測	
	回数 件数	(N=111)	回数 件数	(N=122)	回数 件数	(N=119)	回数 件数	(N=121)	回数 件数	(N=112)	回数 件数	(N=112)
バーコードリーダー	43	29,277 85.9	46	34,703 118.5	45	30,984 89.3	38	29,845 96.3	37	28,023 93.9	37	29,517 105.3
バーコードプリンタ	37	40,375 98.8	43	43,020 106.6	42	44,864 104.3	37	45,839 102.2	36	42,336 92.4	36	44,943 106.2
バーコードサプライ	43	116,263 102.9	46	119,984 103.2	45	125,796 104.8	42	127,131 101.1	42	116,963 92.0	42	120,755 103.2
RFID	66	45,089 111.8	69	33,928 75.2	68	35,758 105.4	66	39,073 109.3	70	36,037 92.2	71	38,452 106.7
バイオメトリクス	10	2,081 102.4	12	2,482 119.3	12	3,355 135.2	12	3,875 115.5	11	2,784 71.8	11	3,029 108.8
ソフトウェア	35	5,639 110.4	39	4,981 88.3	37	5,199 104.4	41	6,787 130.5	34	4,827 71.1	33	5,600 116.0
合計		238,724 101.4		239,098 100.2		245,956 102.9		252,550 102.7		230,970 91.5		242,296 104.9